

令和5年度 指定管理者年度評価シート

1 公の施設の基本情報

施設名称	千葉市美術館	千葉市民ギャラリー・いなげ
条例上の設置目的	千葉市美術館条例（平成7年千葉市条例第34号）（抄） 第1条 本市は、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与するため、次のとおり千葉市美術館を設置する。	千葉市民ギャラリー・いなげ設置管理条例（昭和63年千葉市条例第40号）（抄） 第1条 本市は、市民の美術作品の発表及び鑑賞並びに制作のための施設として、次のとおり市民ギャラリーを設置する。
ビジョン （施設の目的・目指すべき方向性）	本市における美術振興の核となる施設として、博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する美術館の役割・機能を着実に果たすとともに、文化面から千葉都心の集客を図り、市民サービスの向上に寄与する。	市民に身近な芸術活動の拠点として、幅広い世代の人々が親しく美術に触れ合う場となるとともに、歴史的建造物の保存・活用を推進する。
ミッション （施設の社会的使命や役割）	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と密接に結びついた市民参加型の美術館であること。 ・生涯学習の機能を兼ね備えた美術館であること。 ・首都圏の中で埋没することのない個性を備えた魅力ある美術館であること。 ・市民の文化・芸術の拠点として市の発展とともに成長する美術館であること。 ・現代から未来を志向し、国際的視野から市民の美意識を育てる質の高い美術館であること。 ・体験等を中心とした事業を実施し、美術に関する市民の創作活動等を支援すること。 	<p>【市民に身近な芸術活動の拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術作品の展示・制作の場 ・美術作品の制作指導等の実施 ・歴史的建造物の管理及び公開等による活用
制度導入により見込まれる効果	指定管理者制度導入により、指定管理者が、市の求めるビジョン・ミッションや施設の特性を踏まえつつ、専門性や企画力などのノウハウを活用しながら、開館時間の延長、参加・体験型事業の充実、多言語化対応などの具体的な取組みを進めることにより、多くの市民が、各施設において、文化芸術を鑑賞、体験し、創造活動につなげることができるような環境が構築され、市民サービスが向上することを期待する。	
成果指標※	<ul style="list-style-type: none"> ① 展覧会（常設展を含む）入場者数 ② 施設稼働率 ③ 体験・参加型事業の利用者数 	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者数（市民ギャラリー・いなげ） ② 利用者数（旧神谷伝兵衛稲毛別荘） ③ 施設稼働率
数値目標※	<ul style="list-style-type: none"> ① 200,000人以上 ② 48%以上 ③ 15,000人以上 	<ul style="list-style-type: none"> ① 34,000人以上 ② 11,500人以上 ③ 55%以上
所管課	市民局生活文化スポーツ部文化振興課	

※ 成果指標及び数値目標は、選定時に設定したものである。

2 指定管理者の基本情報

指定管理者名	公益財団法人 千葉市教育振興財団	
構成団体 （共同事業体の場合）		
主たる事業所の所在地 （代表団体）	千葉県千葉市中央区弁天3丁目7番7号	
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日（5年）	
選定方法	非公募	
非公募理由	美術館の拡張整備（リニューアル）を契機とした新たな事業展開において、市との連携を図りながら、市民サービスの充実や質的な向上が求められる中、展覧会の実施や美術品の収集など事業実施までに中長期的な期間を要することが多く、十分な研究成果や豊富な経験に裏付けされた専門的知見を有する職員が継続的に携わる必要があることなど美術館としての施設特性を踏まえ、同一団体が継続して担うほうが、施設の管理は合理的かつ効果的であるため。	展覧会の企画や講習会の実施等に当たり美術品の展示に関する専門性を要するとともに、隣接する国登録有形文化財（旧神谷伝兵衛稲毛別荘）の管理に係る経験等も要求されるものであるため。
管理運営費の財源	指定管理料及び利用料金収入	

3 管理運営の成果・実績

(1) 成果指標に係る数値目標の達成状況

ア 千葉市美術館

成果指標	数値目標※	R5年度実績	達成率
展覧会（常設展を含む）入場者数	200,000人以上	174,832人	87.42%
施設稼働率	48%以上	42.5%	88.5%
体験・参加型事業の利用者数	17,000人 (15,000人以上)	42,418人	249.5% (282.8%)

※数値目標は選定時に設定した数値であり、市設定の数値を上回る目標を指定管理者が設定している場合、市設定の数値は括弧書きで表している。

イ 千葉市民ギャラリー・いなげ

成果指標	数値目標※	R5年度実績	達成率
利用者数 (市民ギャラリー・いなげ)	34,000人以上	15,861人	46.6%
利用者数 (旧神谷伝兵衛稲毛別荘)	11,500人以上	5,644人	49.0%
施設稼働率	55%以上	49.9%	90.7%

※ 数値目標は選定時に設定した数値であり、市設定の数値を上回る目標を指定管理者が設定している場合、市設定の数値は括弧書きで表している。

(2) その他利用状況を示す指標

指 標	R5年度実績
※設定なし	

4 収支状況

(1) 必須業務収支状況

ア 収入

費目	R5年度	【参考】 R4年度	計画実績差異・要因分析			
			差異		主な要因	
指定管理料	実績	555,925	542,886	実績－計画	0	光熱水費の高騰及び美術作品デジタル化事業の拡充
	計画	555,925	528,351	計画－提案	27,614	
	提案	528,311	526,965			
利用料金収入	実績	63,260	41,678	実績－計画	△ 22,651	観覧料収入の減
	計画	85,911	87,631	計画－提案	664	
	提案	85,247	85,160			
その他収入	実績	21,472	12,628	実績－計画	△ 4,483	ミュージアムショップの売り上げ減 友の会会費収入の下方修正
	計画	25,955	25,655	計画－提案	△ 450	
	提案	26,405	26,105			
合計	実績	640,657	597,192	実績－計画	△ 27,134	
	計画	667,791	641,637	計画－提案	27,828	
	提案	639,963	638,230			

イ 支出

費目	R5年度	【参考】 R4年度	計画実績差異・要因分析			
			差異		主な要因	
人件費	実績	164,262	154,947	実績－計画	△ 660	人員構成の差
	計画	164,922	161,702	計画－提案	△ 2,452	
	提案	167,374	165,803			
事務費	実績	129,516	125,003	実績－計画	17,962	光熱水費の高騰
	計画	111,554	89,060	計画－提案	22,187	
	提案	89,367	89,399			
管理費	実績	0	0	実績－計画	0	
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
委託費	実績	166,335	173,688	実績－計画	△ 5,125	清掃業務等の仕様の見直し 管理委託費の見直し
	計画	171,460	169,441	計画－提案	△ 16,935	
	提案	188,395	188,430			
その他事業費	実績	199,935	199,523	実績－計画	△ 8,079	諸謝金、消耗品費、広告宣伝費等の見直し 展覧会事業費（監視員代金）等の増
	計画	208,014	210,993	計画－提案	24,401	
	提案	183,613	183,592			
間接費	実績	10,842	9,559	実績－計画	△ 999	給与（職員手当）の減 給与の増
	計画	11,841	10,441	計画－提案	687	
	提案	11,154	11,006			
合計	実績	670,890	662,720	実績－計画	3,099	
	計画	667,791	641,637	計画－提案	27,888	
	提案	639,903	638,230			

間接費の配賦基準・算定根拠

公益法人会計基準に則り6つに区分し、本部経費については、従事割合等の配賦基準により各会計に配賦計上。法人会計に配賦した費用から基本財産、特定資産の運用益等の収益を差し引いた差額を、法人会計以外の5つの会計へ配賦した額の割合で按分し、法人会計の財源として一般管理費に計上する。

(2) 自主事業収支状況

ア 収入

(単位：千円)

費目		R5年度	【参考】 R4年度
自主事業収入	実績	4,295	12,690
その他収入	実績	0	0
合計	実績	4,295	12,690

イ 支出

(単位：千円)

費目		R5年度	【参考】 R4年度
人件費	実績	763	2,736
事務費	実績	114	1,542
管理費	実績	0	0
委託費	実績	1,619	6,128
使用料	実績	0	0
事業費	実績	1,324	2,070
利用料金	実績	42	278
その他事業費	実績	0	0
間接費	実績	39	40
合計	実績	3,901	12,794

間接費の配賦基準・算定根拠

--

(3) 収支状況

(単位：千円)

		R5年度	【参考】R4年度
必須業務	収入合計	640,657	597,192
	支出合計	670,890	662,720
	収支	△ 30,233	△ 65,528
自主事業	収入合計	4,295	12,690
	支出合計	3,901	12,794
	収支	394	△ 104
総収入		644,952	609,882
総支出		674,791	675,514
収支		△ 29,839	△ 65,632
利益の還元額		0	0
利益還元の内容		—	—

5 管理運営状況の評価

(1) 管理運営による成果・実績（成果指標の目標達成状況）

ア 千葉市美術館

評価項目	市の評価	特記事項
展覧会入場者数	C	
施設稼働率	C	
体験・参加型事業の利用者数	A	

イ 千葉市民ギャラリー・いなげ

評価項目	市の評価	特記事項
利用者数（市民ギャラリー・いなげ）	D	R5.10～12 市民ギャラリーいなげの空調設備工事に伴う全館休館の影響を加味し、E→D評価に修正
利用者数（旧神谷伝兵衛稲毛別荘）	D	R5.10～12 市民ギャラリーいなげの空調設備工事に伴う全館休館の影響を加味し、E→D評価に修正
施設稼働率	C	

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：成果指標が市設定の数値目標の120%以上（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。）

B：成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。）

C：成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満

D：成果指標が市設定の数値目標の60%以上85%未満

E：成果指標が市設定の数値目標の60%未満

(2) 市の施設管理経費縮減への寄与

評価項目	市の評価	特記事項
市の指定管理料支出の削減	C	提案額：528,311千円、実績額546,925千円 提案額の3%増となり、C評価とした。

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：選定時の提案額から10%以上の削減

B：選定時の提案額から5%以上10%未満の削減

C：選定時の提案額と同額又は5%未満の削減

(D・E：選定時の提案額を超える支出を行うことはないため、該当なし)

－：対象外（市の指定管理料支出がない。）

(3) 管理運営の履行状況

評価項目		自己評価	市の評価	特記事項
1	市民の平等利用の確保・施設の適正管理	C	C	
	市民の平等利用の確保			
	関係法令等の遵守 リスク管理・緊急時対応			
2	施設管理能力			
	(1) 人的組織体制の充実	C	C	
	管理運営の執行体制			
	必要な専門職員の配置 従業員の能力向上			
	(2) 施設の維持管理業務	B	C	(指定管理者) 市民ギャラリーいなげにおいて、空調設備改修工事によるギャラリー棟の臨時休館期間を利用して、展示室・制作室の壁面塗装、展示台のクロス張替え、施設利用者向け備品の清掃・簡易修繕を行った。 (市) モニタリング結果に基づく市の評価としては、施設維持管理基準の範囲内と捉えられることから、C評価とした。
	施設の保守管理			
	設備・備品の管理・清掃・警備等			
3	施設の効用の発揮			
	(1) 幅広い施設利用の確保	C	C	
	開館時間・休館日			
	利用料金設定・減免 利用促進の方策			
	(2) 利用者サービスの充実	C	C	
	利用者への支援 利用者意見聴取・自己モニタリング			
	(3) 施設における事業の実施	C	C	
	施設の事業の効果的な実施 自主事業の効果的な実施			
4	その他			
	市内業者の育成	C	C	
	市内雇用への配慮			
	障害者雇用の確保			
	施設職員の雇用の安定化への配慮			

【評価の内容】

- A：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
- B：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回るなど、優れた管理運営が行われていた。
- C：概ね管理運営の基準・事業計画書等に定める水準どおりに管理運営が行われていた。
- D：一部、管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、改善の余地がある管理運営が行われていた。
- E：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(4) 市民局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応

意見の内容	意見対象年度	対応・改善の内容
他県の美術館等との連携や広報のターゲットについて工夫をされたい。	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度に東京芸術大学大学美術館（上野）にて開催された「大吉原展」に大英博物館から作品借用を共同で行ったことで、当館の「サムライ、浮世絵師になる！鳥文斎栄之展」においても同作品が展示出来たほか、作品借用の費用通減や同大学美術館での広報を通じた本市の展覧会の広報に繋がった。 ・東京都が実施している「ぐるっとパス」事業へ継続参加しており、都内美術館と本市美術館の相互誘客を図っている。 ・広報では、展覧会の内容や時期に応じてターゲット層を検討し、メディアや広告媒体の選定・活用を行っている。昨年開催した「三沢厚彦展」では、若い世代やファミリー層がターゲットと考えられたことから、これらの層にとって活用や認知度が高いインスタグラムの広告や、市内小学校への特別チラシの配布により、来館を促進するとともに、同展覧会に続いて開催する「荒井良二展」のヴィジュアルを館内に早期に展示することで、興味関心を促した。 ・美術館への関心を更に高めるため、JR千葉駅構内のサイネージを活用した動画広告を新たに行った。

6 利用者ニーズ・満足度等の把握

(1) 指定管理者が行ったアンケート調査

ア 千葉県美術館

実施内容	調査方法	展覧会の会場にアンケート用紙・ボックスを設置し、来場者の意見等を収集した。 (このほかに、イベントごとに終了時に用紙を配布し、意見の収集をした。施設利用者へは、利用後の報告用紙に意見等を記入してもらっている。受付などで受けた意見については日報に記録し、集約している。)
	回答者数	971件
	質問項目	年齢、性別、住所、交通手段、展覧会を知った媒体、来館回数、展覧会の感想、その他本施設に対する意見
結果	<p>ア 回答者の属性：</p> <p>年齢（10歳未満 8%、10代 8%、20代 8%、30代 10%、40代 12%、50代 22%、60代 17%、70代 10%、80歳以上 4%、無回答 1%）</p> <p>性別（男性 40%、女性 58%、その他 1%、無回答 1%）</p> <p>住所（市内 31%、県内 33%、関東9%、都内 19%、その他 4%、無回答 4%）</p> <p>イ 交通手段：</p> <p>J R 千葉駅より徒歩 23%、J R 千葉駅よりバス 8%、J R 千葉駅よりタクシー 1%、京成千葉中央駅 10%、モノレール 9%、自家用車 26%、自転車 4%、その他 7%、無回答 12%</p> <p>ウ 展覧会を知った媒体（複数回答）：</p> <p>新聞 9%、雑誌・ミニコミ 2%、テレビ・ラジオ 3%、チラシ 16%、ポスター 8%、市政だより 3%、知り合いから 11%、友の会・美術館ニュース 3%、千葉県美術館ホームページ 16%、その他インターネットサイト 10%、館に来て 4%、千葉県美術館SNS 5%、その他 10%</p> <p>エ 来館回数：</p> <p>はじめて 39%、2～3回 20%、4～5回 9%、6回以上 31%、無回答 1%</p> <p>オ 感想：</p> <p>大変よかった・期待以上 69%、よかった・期待どおり 21%、普通 4%、あまりよくなかった 1%、よくなかった・期待はずれ 1%、無回答 4%</p>	

イ 千葉市民ギャラリー・いなげ

実施内容	調査方法	ギャラリー棟・別荘にアンケート用紙と回収箱、ギャラリー棟に意見箱を用意し、来館者の意見を収集した。
	回答者数	893件
	質問項目	来館日、性別、年齢、住所、利用施設、申込・受付方法、施設の管理・清掃、受付・窓口の対応、気づいた点
結果	<p>ア 回答者の属性：</p> <p>年齢（10代 5.6%、20代 7.5%、30代 6.9%、40代 13.5%、50代 22.1%、60代 19.4%、70代 18.9%、80代以上 6.3%）</p> <p>性別（男性 41.5% 女性 58.5% 回答無し0%）</p> <p>住所（中央区 9.6%、花見川区 7.6%、稲毛区 13.5%、若葉区 3.3%、緑区 5.7%、美浜区 17.2%、県内他市27.3%、県外その他15.8%）</p> <p>イ 利用施設：</p> <p>ギャラリー棟 38.4%、別荘 61.6%</p> <p>ウ 申込・受付方法：</p> <p>今のままでよい 98.0%、改善してほしい 2.0%</p> <p>エ 清掃状況</p> <p>ギャラリー棟（良い 93.3%、普通 6.5%、良くない 0.2%）</p> <p>別荘（良い 99.5%、普通 0.5%、良くない 0%）</p> <p>オ 窓口・受付対応</p> <p>ギャラリー棟（良い 93.0%、普通 7.0%、良くない 0%）</p> <p>別荘（良い 97.9%、普通 2.1%、良くない 0%）</p>	

(2) 市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応

ア 千葉市美術館

主な意見・苦情	指定管理者の対応
<p>(ソフト面についてのご意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示作品の撮影ができてよかった。 ・もっと撮影できる作品を増やして欲しい。 <p>・ロビー等での話声が展示室に響く</p> <p>・展示室内での解説の声が気になりゆっくり見られない</p> <p>・浮世絵重ね捺しスタンプが楽しかった。</p>	<p>(展示室内での写真撮影について)</p> <p>展示室内での写真撮影を求める声が多くなっていることは認識しているものの、実施した際の意見は多様であり、企画展の分野・来館者の年齢層によっても評価は異なるほか、企画展の出品者所蔵者の意向もある。美術館としては、可能な限り希望に応えられるようにする一方、来館者同士のトラブルに発展することを防止するため、企画展ごとに対応を変えており、一部の作品や展示室を撮影可能とするなどの対応を行っている。</p> <p>(展示室内等での話声について)</p> <p>受付等の説明や案内が長くなりそうな際は、展示室のドアを半分閉める等で都度対処している。また、ボランティア等によるギャラリートークについては、来館者が多くなる企画展最終週は実施しないようにすることで、他の来場者との兼ね合いを図った。</p> <p>(重ね捺しスタンプについて)</p> <p>実施時はアンケートでも好評。常設するには消耗品費が多くなること、管理対応が必要なことから、効果的な時期と設置場所を絞って体験してもらえるように工夫している。</p>
<p>(貸出施設利用者より)</p> <p>施設利用者が実施する催し物情報を掲示する場所が欲しい</p>	<p>1F出入口2か所に、貸出施設利用者用の掲示板（120cm×80cm）を設置し、情報掲示できるようにした。</p>

<p>主にハード面に関する意見・苦情</p> <p>(特に多い、トイレに関する要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1階女子トイレの便座にヒビがあり、挟まれて痛い ・トイレの手洗い場を自動水栓にしてほしい ・ウォシュレットがない <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロッカーコイン式はやめてほしい、1階に設置してほしい ・千葉駅から循環バスがほしい ・千葉駅から道なりに矢印がほしい ・友の会会員証をアプリで表示できるようにしてほしい 	<p>(トイレ関係のご意見への対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1Fトイレの便座を交換した。 ・トイレ手洗い場の自動水栓化を実施した。 ・ウォシュレットの設置については、市に要望している。 <p>(その他ご意見への対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コイン式ロッカーの利便性向上のため、100円玉を受付で用意し両替に対応した。また、ロッカーは、展示室への荷物持ち込み回避のために、4,5,7,8階に分散し監視の目のあるところに設置している。1階に安全な設置可能場所がないことから、1階の設置場所については、今後検討していく。 ・千葉駅からの導線については、巡回バスは採算性の観点から令和2年度に廃止となったものの、道案内についてはR5はNTT跡地の工事仮囲いに高精細デジタル化した美術作品画像や今後の企画展予定と併せて掲出したほか、現在設置の案内看板の刷新・増設やモノレール葭川公園駅からの案内も含め、次期選定時に予算計上し検討する予定。 ・オリジナルのアプリ開発は大きな費用を必要とするため、早期の導入は難しいが、「ぐるっとパス」など数十館が参加していて開発されたサービスには参加し、アプリでQRコードによる受付もできるように対応している。
<p>カフェやレストランのメニューが充実するといい、値段がもう少し安価になるといい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展にあわせて、レストランとコラボメニューを企画開発している。メニューのアイデアや食材の内容のほか、メニュー表や飾り、包装など料理以外のデザイン等についても制作協力している。 ・「三沢厚彦展」でアイデアを提供したカフェのコラボドリンク「ストラットソーダ」(デザインと制作を美術館が担った「缶バッチ」のプレゼント付き)は人気で多数が利用した。 ・値段については、来館者が利用しやすいものとなるよう、レストラン運営業者とその都度交渉すると共に、レストラン運営についても可能な限り協力している。

イ 千葉市民ギャラリー・いなげ

主な意見・苦情	指定管理者の対応
<p>一般向けに存在を知らせるための広報・宣伝が必要だと思われる。</p>	<p>広報のデジタル化を進め、幅広い世代に情報が届くよう各種SNSを活用している。デジタルサイネージを活用するため、施設と周辺地域を含めた紹介動画「いなげ八景～海辺の記憶をたどる」を作成し、コンテンツの充実に努めた。</p> <p>紙媒体では年間予定表を兼ねた「いなげ八景散策マップ」を作成し、観光案内施設、民間商業施設等に配布し、地域全体の活性化を図った。</p>
<p>駐車場の外看板の掲示場所が高所で足場が悪く設営撤去に危険を感じている。</p>	<p>擁壁修繕に合わせて外看板掲示場所に恒久的な踏み台と手すりを設置し、安全に設営撤去が出来るよう改修した。</p>

7 総括

(1) 指定管理者による自己評価

<p>総括 評価</p>	<p>C</p>	<p>【美術館】 令和5年度も8本の企画展を開催、巡回展を含めいずれも千葉市美術館学芸員が主導して行った意欲的な自主企画展であった。アンケートでは90%の観覧者が「大変よかった」「よかった」との感想を示している。常設展と併せて、展覧会の入場者数総計は、174,832人と、開館以来歴代3位の人数となった。教育普及事業の利用者数77,305人、貸出施設の利用者その他をあわせ、年間の美術館利用者人数総計は335,466人で、過去最高を数えた。 企画展入場者数の面では特に「三沢厚彦 ANIMALS/Multi-dimensions」展が、作家の最大規模の回顧展となり、来場者数は28,102人と、現代美術の展覧会として歴代1位を記録、全体でも歴代8位の入場者数を数えた。新作の巨像の展示のほか、館内外各所での作品展示とその誘導、「つくりかけラボ」で同作家をとりあげ制作体験を供したことなど、各種の工夫が功を奏し、教育普及事業への参加も多かった（目標の250%を達成）。作家の滞在も好評で、子どもだけのリピート来館も掘り起こした。参加者数の多寡の指標だけでなく、美術館という場が多様な役割を果たし得る、存在意義を示した。続く「new born 荒井良二 いつもしらないところへたびするきぶんだった」展は、熱心なファンが海外からも来場していたが、三沢展から引き続きの来館者もあり、千葉市美術館の新しいファン層を築いた。コロナ禍前は例年平均して60代以上の来館者が4～50%だったが、リニューアル後は2～30代が顕著に増えている。特にR5年度は三沢・荒井両展で50代までが8割以上を占め、最終的にもR5年度は2～50代で6割を占めるように変化し、課題であった若年層への幅を広げることができた。一方で「サムライ、浮世絵師になる！鳥文斎栄之展」は、ボストン美術館・大英博物館からの借入も含めた質の高い大規模展として、これまでの千葉市美術館の浮世絵ファンの期待に大いに応えるもので、観覧者数も17,682人と、知名度はそれほど高くない浮世絵師の個展ながら歌麿、春信に次ぐという成功をおさめた。内覧会やイベント等従来の催しもほぼ復活し、コロナ禍で遠ざかっていたファン層、年齢層を呼び戻し（60代以上が50%）、図録の売上率も非常に高く評価された。 全体として、光熱費のほか人件費や資材等の物価高、円安や運賃高の影響が益々大きくなったが、自前の企画を行ってきたノウハウを生かし、事業の質と安全性を落とさぬよう工夫を重ねて推進した。その分広報費などを削減せざるをえなかったが、市との連携につとめ、企画展入場者数が確保できたこともあり、リニューアル後展開してきた新しい教育普及事業や、コレクションを活用した常設展などの事業が、定着してきたことの手応えを得た年となった。</p> <p>【Gいなげ】 市民が世代やジャンルを超えて美術や文化に親しみ、交流できる「場」を目指し、地域商店街や各教育機関との連携を踏まえた展覧会、講習会及びイベント等を企画・運営し、地域アート・文化の拠点としての事業を展開した。 また、地域や各教育機関等と連携するとともに、ボランティア等の市民と協働し、当ギャラリーの円滑な運営に努めた。</p>
------------------	----------	--

(2) 市による評価

<p>総括 評価</p>	<p>C</p>	<p>【千葉市美術館】 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、昨年度に比べて入館者数は大幅に増加、施設稼働率も年を追うごとに上昇しており、体験・参加型事業においては目標に対し250%近い達成率となるなど、一定の成果は出ているものの、主要事業である展覧会の入場者数は目標である20万人達成には至っておらず、全体的な評価としては概ね市の基準どおりの運営であると考えられる。 企画展事業においては、写真展・彫刻展・現代美術展・浮世絵展と当初計画どおりに事業を展開しており、来館者アンケートの結果から来館者の満足度も高いことがうかがえる。令和5年度は特に「三沢厚彦 ANIMALS」展にてターゲット層に合わせてSNSやデジタルサイネージを利用した広告にも力を入れた結果、夏休み中の子供達やその親世代達を中心に普段美術館になじみがなかった層の集客にもつながり、結果として目標来場者数に対し140%超の結果を残すことができたとともに、その相乗効果として、体験・参加型事業への参加者数も令和4年度から倍増した。令和2年度のリニューアル時に整備したこともアトリエを活用した「つくりかけラボ」や、「みんなでつくるスタジオ」等の体験・参加型事業が浸透してきたものと考えられる。そういった成果が見られた一方で、目標数値に届かなかった展覧会もあり、展覧会入場者数は目標である20万人を下回る結果となった。 加えて、全体的な赤字は依然解消されていない状態にあり、コロナ禍明けで呼び戻せた従来の60代以上中心の客層のみならず、令和5年度の企画展や体験・参加型事業で得た新たな若い世代の客層をリピーターとできるよう、引き続き広報手段や事業実施手法を工夫し、より多くの層を取り入れ収入の確保につなげられたい。</p> <p>【千葉市民ギャラリー・いなげ】 ギャラリー棟の3か月間の休館がありながらも、展示室や制作室の稼働率は概ね計画どおりの達成率となっており、アンケート結果でも昨年度に引き続き建物・庭園内とともに日常清掃が行き届いているという評価をいただいている。また、休館期間を利用した施設の整備等、市民サービスに影響を与えないような施設管理を行っており、概ね市の基準どおりの運営がされているものと評価できる。 一方で、旧神谷伝兵衛稲毛別荘については、利用者数が昨年度よりも大幅に減少している。アンケート結果でも施設の広報・宣伝が必要との意見もあることから、令和5年度に新たに開始したSNSでの広報のほか、「いなげ八景散策マップ」の配付先の工夫をするなど、施設の認知度向上をはかり、さらなる集客に努められたい。</p>
------------------	----------	---

【評価の内容】

- A：市が指定管理者に求める水準等を大きく上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
- B：市が指定管理者に求める水準等を上回る、優れた管理運営が行われていた。
- C：概ね市が指定管理者に求める水準等に則した、良好な管理運営が行われていた。
- D：管理運営の一部において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、改善の余地のある管理運営が行われていた。
- E：管理運営全般において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(3) 市民局指定管理者選定評価委員会の意見

- ア 市の作成した年度評価案の妥当性について
市の作成した年度評価案の内容は、妥当であると判断される。
- イ 管理運営のサービス水準向上、業務効率化の方策、改善を要する点等について
- (ア) 駐車場が満車の際の案内・誘導について適切に行われたい。
 - (イ) 高校との連携について検討されたい。
 - (ウ) 有料・無料の入場者について、分析し、そのバランスを適切に検討されたい。
 - (エ) SNSでの広報について引き続き努められたい。
 - (オ) 施設運営に関わる経費削減努力は評価できる。
 - (カ) 指定管理者の財務状況について、計算書類等の資料に基づいた判断であることを前提とするが、多少留意すべき事項はあるものの、全体的に改善傾向であるため、倒産、撤退のリスクはないと判断される。